早瀧比咩神社通信

発行所：
早瀧比咩神社
総代会
玉野市滝773番地
不定期発行
編集：葛原

おかえりなさい！！

荒神社と牛頭天王宮

うつぎ原から遷座の経緯

早瀧比咩神社には北東方向に素戔嗚神社（小宮さん）、一の滝には龍神社（水の神）うつぎ原には荒神社（山の神）と牛頭天王宮(*1)、奥地区には岩上神社（火の神）蓮岡地区には稲荷神社（五穀の神）等の末社が現存します。また境内社として北側には若一王子宮(*2)、天照大御神（石碑）や南側には木野山神社が祀られています。牛頭天王宮は若一王子宮と共に小宮さん素戔嗚神社と同じ場所に祀られていましたが、水害を機に天保3年12月25日に三輪石仲藤原光通宮司時代に境内社として再建されました。その後、理由は不明ですが明治33年に荒神社と牛頭天王宮はうつぎ原地区へ遷座（分社）されました。

うつぎ原荒神社

分社された両社は長年うつぎ原地区で氏神様としてお祀りされてきましたが、令和元年11月、氏子の少子高齢化の波を受けてこれら二社の祀り事を諦め早瀧比咩神社へ返還したいとの申し出を受けました。神社総代会としては青天の霹靂でしたが、一年間以上にわたり、お宮内で協議を重ね、複数社に遷座費用の見積取寄せを行い、条件付きで受け容れることにしました。うつぎ原地区代表者と当神社は話し合いを行い、令和二年10月19日合意事項を覚書にまとめ、署名して、遷座を決定しました。遷座費用を節約するため両者で基礎工事を奉仕することにしました。場所は神社北側の明治33年以前にお祀されていたと思われる場所に決め、根っこを除去するなどの整地を行い10月31日宮司をお迎えし両地区代表参加で地鎮祭を行いました。その後、整地を重ね20cm程掘り下げて型枠を設置しベタコンを打って、乾燥を待ち11月8日には所定の高さ迄ブロック積みを行いました。11月17日には上口石材さんのご寄進により厚さ6cmの御影石数枚が丁寧に布設完成されました。

うつぎ原牛頭天王宮社

作業と並行して11月6日には宮司さんによりうつぎ原地区の神社の抜魂式（たましい抜き）を行いました。また11月7日には正蔵院ご住職により荒神社内の仏像閉眼式を執り行いました。何故か荒神社内部に千手観音、大師座像等の仏像が祀られていました。これら仏像はご住職の厚意によりお寺境内に安置して頂く運びとなり一連の神仏事を済ませました。11月11日二社を吉澤建設へ運び、現在修理中です。完了後は遷座祭を行います。続きは次号でお知らせします

(*1)牛頭天王（ごずてんのう）は京都祇園八坂神社の祭神で素戔嗚尊と同一神とされており、勧請される際の警護役の随神と思われます。

(*2)若一王子（にゃくいちおうじ）は若宮様と呼ばれ、少女または幼童の姿で現れる王子神で、熊野権現の勧請された所に随伴神として祀られた例が多いそうです。

特集　木野山神社

木野山神社は早瀧比咩神社南下神社裏山の裾野に祀られている境内社です。

山陽新聞社県内版の記事によれば、流行病にご利益があるとされる木野山神社（高梁市津川町今津）は明治時代猛威をふるったコレラの収束を願って参拝者が詰めかけ県内各地に分社が建立されたそうです。神社の境内社もその一つとされ、明治四二年二月に武部隆一郎氏により初寄進され、その後、龍栄堂の大賀彰将氏と一の滝の古市幸太郎氏により再施工されました。コロナ禍が続く中、収束をお願いしてみてはいかがでしょう。

境内社の木野山神社

秋祭り

コロナ禍が治まらず、今年の秋祭りにも大きな影響がありました。昭和天皇ご崩御以来のみこし、だんじり巡行中止となり寂しいお祭りでしたが、秋祭り式典は10月17日午前10時から予定通り行われ、招待者や津村衆院議員も式典に参列されました。

一の滝在住のスペイン人女性のマルタ・モンカーダさんも参拝され、お宮関係者と親しく懇談されました。祭りに先立ち一般氏子の皆様の協力も得て〆縄づくりを行いましたが、今年は初めて滝区にて育てられた稲わらを用いました。

懸仏基板見学ツアー

11月5日　玉野市教育委員会主催で滝地区文化財を尋ねるイベントが行われ、午後2時30分頃、約40名の市民の皆さんが早瀧比咩神社を訪れました。市重要文化財「懸仏基板」等を見学されました。懸仏基板は神仏習合を示す貴重な資料です。詳しくは向拝右側の説明板をご覧下さい。

七五三祭

11月15日(日)には七五三祭（紐落とし）が行われました。本年も滝地区のお二人の子どもさんが親御さんと一緒に祝福されました。このお祭りは言葉を理解し始める3歳頃から乳歯の生えかわりがある7歳頃までは、成長に伴って、特に病気になりやすい年齢と考えられていたため、子供の健やかな成長をお祈りするための行事として儀式が行われています。

お宮風致維持作業

裏山の雑木切りを続け本殿屋根廻りが晴れ晴れしました。また社務所裏西側に4台ほどの駐車できる場所を設けました。展望台への登山道から入れます。　また社務所裏を増築し、本殿壁板にぶら下げられていたほうき等を移動し収納しています。

あとがき

お宮の歴史を調べることは難しい反面、興味深いものがあります。武下嘉之氏の詳しい文献を引用させてもらいました。

境内に残された石碑や神社保管の木簡に残された記録は大いに助かります。今回の遷座についても記録に残して後世に伝えます。（編集士）